



## JOHNSON TOWN (入間市)

2014年9月 訪問  
埼玉モダンたてももの学生レポーター  
埼玉大学教養学部 井上 智桂乃



ジョンソントウンの歴史は、昭和初期にまでさかのぼります。

当時、近くの製糸工場で働く女性従業員の食料調達のための農園が広がっていました。そして、その農園20万坪を磯野商会の磯野達雄社長の父親が買い取りました。

1939(昭和14)年、近くにできた日本軍の旧陸軍士官学校の要請で、そこに勤める将校達のために平屋の日本家屋が建設されました。

戦後の朝鮮戦争による基地増強により、1953(昭和28年)に軍人向けに玄関の段差がない外国人向け住宅である「米軍ハウス」が建設されました。「ジョンソントウン」という名前はこの基地に由来しています。

1978(昭和53)年に基地が返還されて以降、ジョンソントウンも老朽化により荒廃しましたが、次第に画家や音楽家など芸術家の卵たちが住むようになり、文化の発信地として姿を変えていきました。



文化を保存したいと考えた磯野社長は1996(平成8)年頃から本格的にリフォームを始め、ジョンソントウンの立て直しを行いました。しかし、荒廃した米軍ハウスの再建は難しく、新築する方が費用も安く時間もかからない状態でした。

そこで、米軍ハウスは全てリノベーションされ、老朽化の進んだ日本家屋は解体、そして2003(平成15)年に米軍ハウスのコンセプトに合った住宅「平成ハウス」が建ちました。

現在は、米軍ハウスが24棟、平成ハウスが35棟、日本家屋4棟が集まり、美しい町並みをつくっています。

アメリカ雑貨を扱うお店や、カフェなどの飲食店をはじめ、美容室や整骨院、家具屋、デンタルクリニックやダンススタジオまで、暮らしや遊びに役立つお店がたくさんあります。街歩きや食事をのんびり楽しむことができます。また、毎月第一日曜にOne Day マーケットを開催しています。





ちょうど改修中の米軍ハウスにおじゃまさせていただきました。下見板張りの白い外壁と瓦の切妻屋根に和洋折衷を感じます。



全ての部屋が洋室で、腰板張りです。板張りは、傷や汚れが付きやすい高さの壁を保護する役目があります。壁と床と腰板の調和はインテリアとして楽しめそうですね。

手前の窓から見える奥のスペースは後から増築された部分。なので、反対側から見ると外の白い外壁と同じ壁を見ることができます。そして手前の窓は当時の窓で木サッシです。



入居者の方が好みに合わせて自由に改装ができるように、内装はスケルトンに近い仕様で賃貸されます。希望によっては、天井を抜いて吹き抜けにもできるそうです。



こちらはリビング。左手にあるキッチンと繋がっています。ベニヤ貼りの天井と、高い位置にある小さめの窓が、ハウスの特長です。



天井をよくみると、ボードの目地隠しに可愛らしい模様を見つけました。



こちらは、日本陸軍に貸与していた「磯野住宅」のなごりである日本家屋です。トタン屋根はどこか懐かしさを覚えます。

STOPと書かれた看板の奥に見える建物は米軍ハウスを踏襲して建てられた「平成ハウス」です。平屋の大きな屋根は空が広く感じられます。



看板や標識も英語表記で統一され、店先に置いてある小物など、ここが日本であることを忘れさせるようなアイテムが街中に見受けられます。



昨年まで駐車スペースだった場所は今では、居住者の憩いの場となりました。建物は白く塗られた横張りの外壁で統一され、区画を仕切るための外壁がなく開放的な雰囲気を出しています。



街の中にある青いポストは、街の景観に合うようにと、この色になりました。郵便局と交渉して作ったそうです。周りの緑に映えてとてもきれいですね。